

① 1年生 | 「かたち」

体で感じる「かたち」の学習を 他の教科にも広げよう

○ 図工「はこで作ろう」への発展

1年生の算数で、箱を使って「かたち」遊びをします。仲間に分類したり、形あてをしたり、積んでみたりして「かたち」を理解していきます。

その後、集めた箱を積んでつなげて、図工の時間にロボットや家、お城などを作り、積み木ならぬ「積み箱」遊びを楽しみます。



○ 体育「とびっこ遊び」への発展

それぞれが作った作品は、しばらくの間、飾ったり遊んだりして楽しめます。この後は、体育の「とびっこ遊び」で、さらに使います。

ひとりひとりが作った自分の「積み箱」を跳び越えます。高すぎるときには向きを変えたり、パーツをはずして形を変えたりして跳び越えます。

次に、友達の「積み箱」を跳び越えます。高い箱もあれば、低い箱もあります。跳び越えながら立体の高さを感じていくのです。

グループごとに並べて跳び越えることもしました。ハードル走状態です。「積み箱」を高さの順に並べ、リズムよく跳べる工夫をしているグループもありました。普通の段ボール箱を並べても楽しめます。



○ 段ボール箱での「積み箱」遊び

さらに大きな段ボール箱も一緒に並べ、段ボール箱で「積み箱」をしました。子どもと一緒に箱を積み上げて大きな塔のようにしました。積み木遊びの体験が少なくなった子どもたちにとって、大きな箱を積み上げる経験はとても新鮮です。どんどん積み上げていきました。大きな箱に穴をあけたり、トンネルにしたりして、くぐるコーナーろくぼくも作りました。

体育館にあるろくぼく肋木やステージ、平均台や跳び箱、マットとも合わせて、子どもたちは立体的な体育の場で運動を楽しみながら、立体を感じていきました。

算数的にも、立体を中から見ることを共通体験しておくことは重要です。箱の中に入ることを子どもたちは喜びます。どんな箱が入りやすいのか、子どもたちは経験しながら覚えていきます。箱の中に入りながら容積を感じていきます。

体で感じる「かたち」の学習を、算数だけでなく、図工や体育、生活科などの年間計画に組み入れることをおすすめします。体で感じるたくさんの経験が、この後の立体の学習に生きてくるのです。

